

## 7 . 堰と周辺地域との関わり

7.1 評価の進め方.....	7-1
7.1.1 評価方針 .....	7-1
7.1.2 評価手順 .....	7-1
7.1.3 必要資料（参考資料）の収集・整理 .....	7-2
7.2 堰周辺の概況.....	7-3
7.2.1 堰周辺地域の概要.....	7-3
7.2.2 堰の立地特性.....	7-7
7.3 堰事業と地域社会情勢の変遷 .....	7-10
7.4 堰と地域の関わりに関する評価 .....	7-11
7.4.1 地域における堰の位置づけに関する整理 .....	7-11
7.4.2 地域と堰管理者の関わり.....	7-14
7.5 堰周辺の状況.....	7-19
7.5.1 周辺環境整備事業の状況.....	7-19
7.5.2 堰周辺施設の利用状況 .....	7-21
7.6 河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果.....	7-22
7.6.1 河川空間利用実態調査結果.....	7-22
7.6.2 川の通信簿 .....	7-24
7.7 まとめ .....	7-26
7.7.1 堰と周辺地域との関わりのまとめ.....	7-26
7.7.2 今後の方針 .....	7-26
7.8 文献リスト .....	7-27



## 7.1 評価の進め方

### 7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は大きく2つの流れの評価を行う。1つは、地域との関わりという点で、堰建設から管理以降、現在までの堰事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理し、地域において堰がどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えてくべきか等についての評価方針とする。

もう1つの流れとして、堰周辺整備事業と堰及び堰周辺の利用状況から評価を行う。堰周辺に整備された施設等が十分に利用されているか、又は、逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行う。

最後にこれらをまとめ、堰及び堰周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討する。

### 7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの流れにより評価を行い、とりまとめることとする。

#### (1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等の堰の立地特性等の視点から水源地域の概況を把握する。

#### (2) 堰事業と地域社会情勢の変遷

堰建設が直接地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会、地域の交流活動・イベント等について、堰事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、堰事業と地域社会の係わりを把握・整理する。周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等は、堰の影響とは言えないまでも関連がありそうな事項を抽出する。

#### (3) 堰と地域の関わりに関する評価

堰と地域との関わりとして、(2)をもとに、地域における堰の位置づけについて考察を行う。さらに堰管理者と地域の関わりとして、堰管理者と地域との交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価する。

#### (4) 堰周辺の状況

堰周辺の現況の整備状況等や、堰事業と一体となって整備した施設等について整理する。また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行う。

#### (5) 河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果より、堰周辺の年間利用者数、利用形態等について整理する。また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想を持っているかについても整理し、利用者の視点からの堰周辺施設（環境整備）の評価を行う。

## 7. 堰と周辺との関わり

### (6) まとめ

以上より、地域と堰の関わり、堰の利用状況に関する評価結果をまとめ、堰の特徴、課題等について整理する。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめるものとする。

#### 7.1.3 必要資料（参考資料）の収集・整理

堰周辺の社会情勢、利用、整備状況等に関わる資料等、まとめに必要となる資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は、「7.8 文献リストの作成」において整理する。

## 7.2 堰周辺の概況

### 7.2.1 堰周辺地域の概要

#### (1) 概要

紀の川大堰は、紀の川の河口から約 **6.2km** 上流の和歌山市内に位置しており、周辺には大阪府の岬町、阪南市、和歌山県の岩出市、紀の川市、海南市などがある。

紀の川流域は、和歌山県・奈良県両県にまたがり、和歌山市・岩出市・五條市など **8市8町4村** からなり、流域のほとんどは山地で、その面積は **1,475km<sup>2</sup>** と流域面積の **84.3%** を占めており、平地は橋本市付近から下流の河岸段丘と紀伊平野のみであり **275km<sup>2</sup>** (**15.7%**) と少ない。

流域の市町村としては、和歌山県の経済・社会・交通・文化の中心をなしている和歌山市や、中流部の商業・文化・交通の中心をなしている橋本市・五條市、奥吉野地方の生産物の集散地である吉野町・下市町などがある。

紀の川大堰周辺の主要交通網としては、国道 **24号**、**26号**、**42号** 等の主要国道が通り、和歌山市内でこれらの基幹交通施設が交わる他、特定重要港湾である和歌山下津港が位置し交通の要衝となっている。



【出典：数値地図 50000 (地図画像) 平成 20 年 8 月】

図 7.2-1 紀の川大堰周辺の概況

## 7. 堰と周辺との関わり

### (2) 土地利用

紀の川大堰上流右岸側に位置する直川地区は、過去より洪水時には内水被害が多発する地区であったが、紀の川大堰建設事業により内水被害が軽減された。これにより、概ね低湿地の水田利用であった地域一帯において和歌山市による未利用地の活用が進められ、近年では阪和自動車道と歌山北ICや都市計画道路が建設された他、公共施設の設置や商業施設、事業所等の進出が見られ、地域開発が進展している。



図 7.2-2 直川地区の土地利用状況

### (3) 人口

昭和45年（1970年）から平成22年（2010年）までの和歌山市の人口と世帯数の推移は、以下に示すとおりである。和歌山市の人口は昭和55年（1980年）まで増加傾向を示し、約40万人でピークを迎えたが、その後は減少に転じ、平成22年には約37万人と、昭和55年の約92%となっている。一方で、世帯数は継続して増加傾向を続けており、上水道の供給先世帯は増加している。

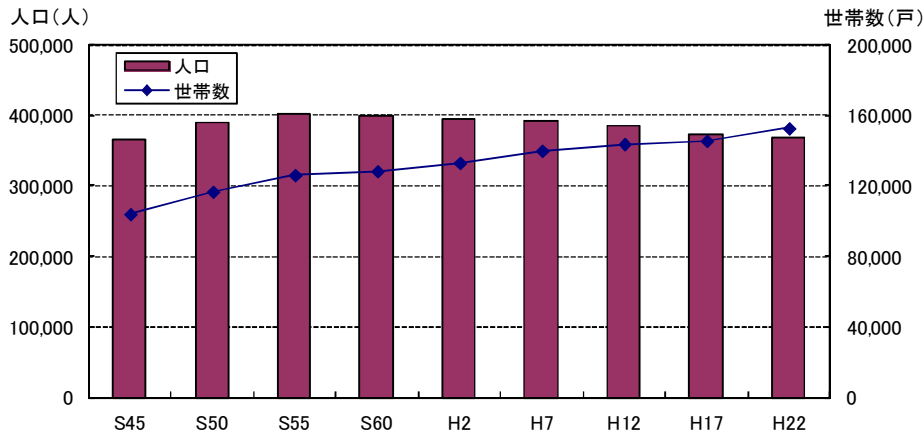
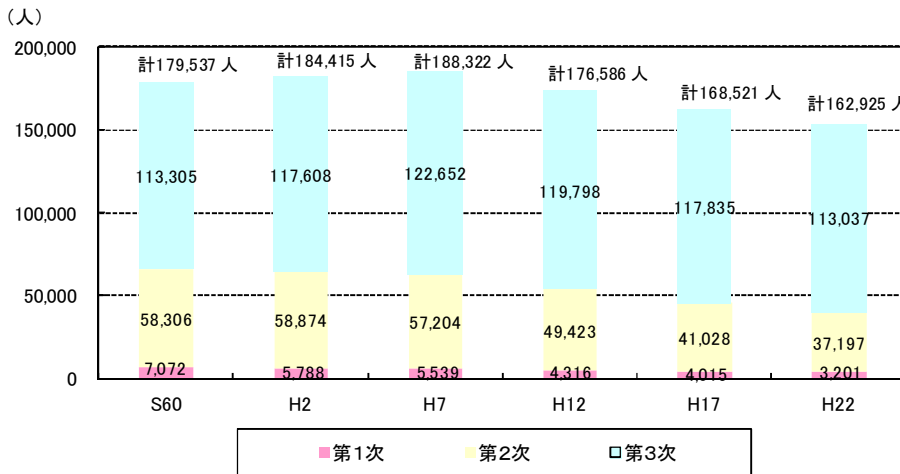


図 7.2-3 和歌山市の人口及び世帯数の推移

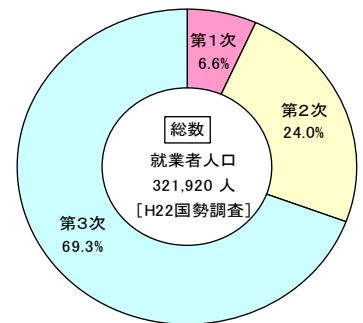
(4) 産業

和歌山市の産業別就業人口の昭和 60 年 (1985) から平成 22 年 (2010) までの間の推移は、以下に示すとおりである。

就業者人口は、平成 7 年をピークに減少傾向を示しており、平成 22 年には約 16.3 万人となっている。産業別では、平成 22 年には第 3 次産業が全体の約 70%、第 2 次産業が約 23%、第 1 次産業が約 2%を占めている。平成 7 年以降、いずれの産業についても就業人口は減少しているが、特に減少割合が大きいのは、1 次産業 (平成 22 年には、平成 7 年の約 58%)、および 2 次産業 (平成 22 年には、平成 7 年の約 65%) となっている。



【H22 年度内訳】



注：就業者人口総数には「不詳」を含む。

【出典：国勢調査】

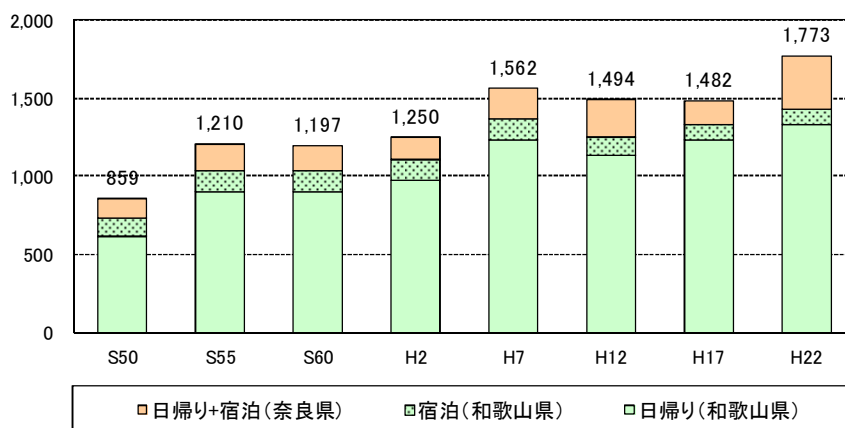
図 7.2-4 和歌山市の産業別就業人口の推移

## 7. 堰と周辺との関わり

### (5) 入り込み客数の推移

紀の川流域の入り込み客数の推移を示す。入り込み客数は、和歌山県観光客動態調査報告書、及び、奈良県観光客動態調査報告書の値をもとに、和歌山県全体、及び、奈良県の紀の川流域にかかる市町村を対象に集計した。

昭和 50 年以降、入り込み客数は概ね増加傾向にあり、平成 22 年には、地域人口の約 25 倍の 1773 万人程度が訪れている。



注：奈良県については、下記に示す地域の合計値である(赤字：紀の川流域の市町村)。

H22：Dエリア(五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村)

S50～H17：吉野山(吉野町)、東吉野(東吉野村)、吉野川(五條市、大淀町、下市町)、大台ヶ原(上北山村、川上村)、大峯山北部(天川村、上北山村、黒滝村、川上村)

【出典：和歌山県観光客動態調査報告書 昭和50年～平成22年】

【出典：奈良県観光客動態調査報告書 昭和50年～平成22年】

図 7.2-5 紀の川流域の入り込み客数の推移



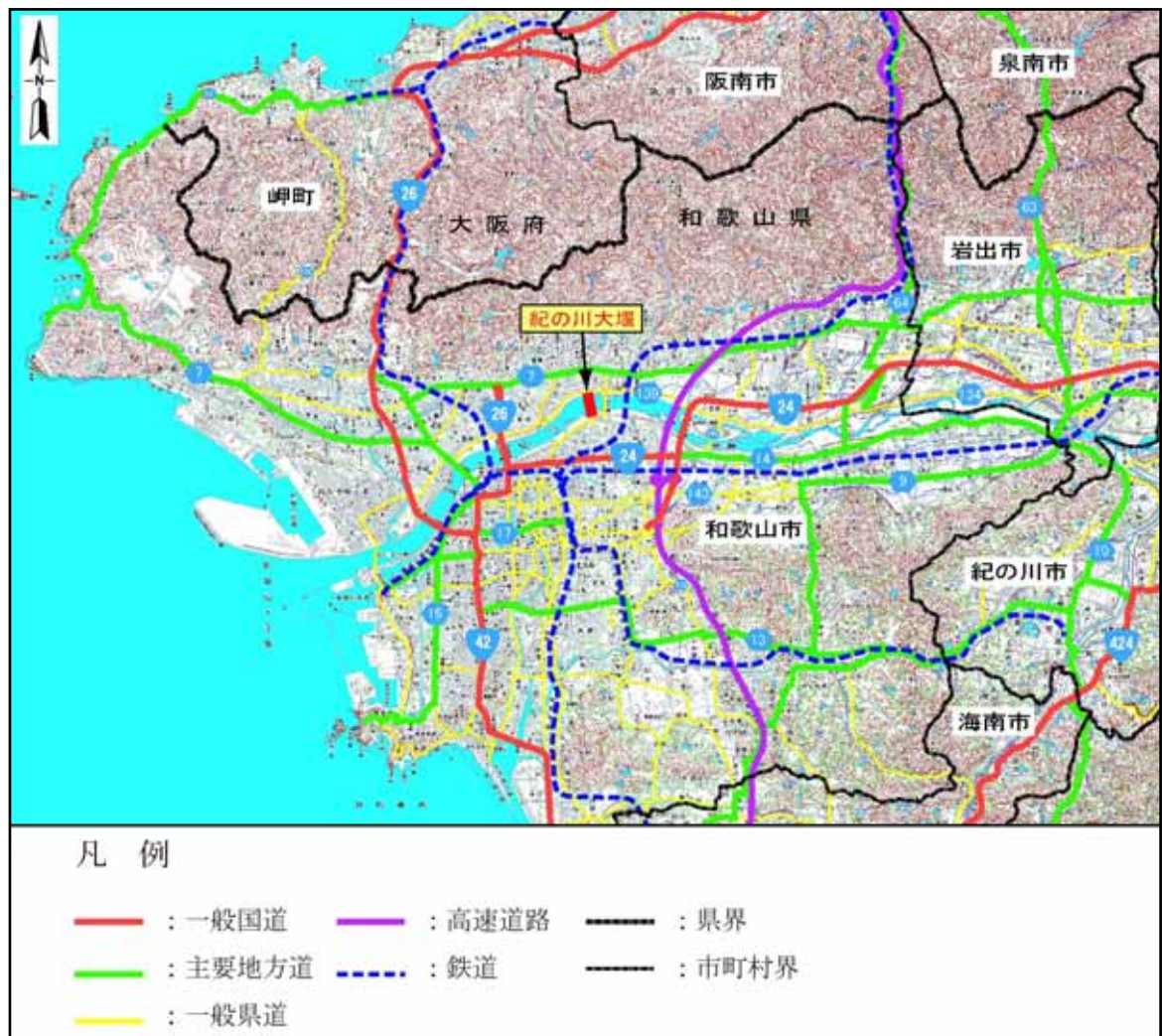
## 7.2.2 堰の立地特性

## (1) アクセス性

紀の川大堰周辺の交通網は図 7.2-6 に示すとおりである。

道路では、和歌山市を基点に国道 26 号が北方へ、国道 42 号が南方へ、国道 24 号が東方へと伸び、主要な 3 本の国道の結節点となっている。紀の川大堰から東へ約 1.7km の地点には阪和自動車道（和歌山北インターチェンジ）が南北に走り、広域高速道路網とネットワークしている。鉄道は、紀の川大堰の南西約 3.4km の地点に南海本線和歌山市駅が、北東約 1.2km の地点に JR 阪和線六十谷駅があり、加えて堰の南側約 1.3km には JR 和歌山線が東西に延びている。

大阪方面から紀の川大堰へのアクセスは、鉄道利用では大阪駅から JR 阪和線（快速）で六十谷駅まで約 1 時間 30 分であり、六十谷駅から紀の川大堰までが約 1.6km となっている。車でのアクセスは、吹田 JCT から阪和自動車道を通り、和歌山インターチェンジまたは和歌山北インターチェンジまで約 1 時間であり、紀の川大堰までは、和歌山インターチェンジから国道 24 号を通り約 3.0km、和歌山北インターチェンジから県道 139 号を通り約 2.5km となっている。



【出典：県別マップル 30 和歌山県道路地図 平成 24 年】

図 7.2-6 紀の川大堰周辺の交通網

## 7. 堰と周辺との関わり

### (2) 周辺の観光施設（スポット）等の状況

紀の川流域には、歴史・文化や水と緑などの自然に恵まれた観光地が多く点在している。主要な観光資源として、上流部では吉野水分神社、吉水神社、金峯山寺など、中流部では隅田八幡神社、紀の川フライトパーク、粉河寺など、下流部では根来寺、養翠園庭園、紀三井寺、和歌山城などが挙げられる。また、国指定文化財が 216 ヶ所、県指定文化財が 225 ヶ所ある。紀の川大堰が位置する和歌山市には、平成 25 年度には年間約 610 万人の観光客が訪れた。代表的な観光資源を、図 7.2-7 および表 7.2-1 に示す。

【参考：紀の川水系河川整備基本方針 平成 17 年 11 月】

【参考：和歌山県観光客動態調査報告書 平成 25 年】



【出典：和歌山市観光協会 公式ホームページ、岩出市ホームページ、紀の川市観光協会、かつらぎ町観光協会、橋本市観光協会ホームページ】

図 7.2-7 紀の川流域の観光地等の位置

表 7.2-1 観光地等の概要

観光地等名称	所在地	概要
和歌山城	和歌山市	和歌山城は、天正13年(1585)に紀州を平定した豊臣秀吉が弟の秀長に築城させたのが始まりである。 和歌山城天守閣は、虎伏山の頂上に位置し、市街地を四方に見下ろすことができ、大パノラマが広がる。現在の天守閣は、戦災後の昭和33年(1958)に再建されたもので、内部には徳川家ゆかりの品が多数展示されている。
紀三井寺	和歌山市	この寺は、宝亀元年(770)、唐の僧為光(いこう)上人によって開かれた。和歌山城からほど近いところにあるため、歴代藩主が訪れ、紀州徳川家の繁栄を祈願した寺である。 二百三十一段の石段を登ると和歌浦湾が一望できる。また、六角堂は、西国三十三箇所を巡礼するのに等しい功德があると伝えられ、他府県からもたくさんの人が年中途切れることなく参拝に訪れている。
紅葉溪庭園	和歌山市	紅葉溪庭園は、徳川頼宣が西の丸御殿に築いたもので、浅野公時代に築かれた内堀の一部と、虎伏山の起伏をたくみに利用した庭園であり、紅葉の眺めはもちろんのこと、四季折々に趣のある風景を鑑賞できる。
紀伊風土記の丘	和歌山市	総面積約65万㎡の園内全体がひとつの博物館であり、古墳や文化財民家、万葉植物園、復元竪穴住居、資料館など文化財に直接触りながら歴史を学ぶことができる。また、四季折々の花も楽しみ、ハイキングコースとしても親しまれている。
紀州東照宮	和歌山市	元和7年(1621)、頼宣が南海道(なんかいどう)の総鎮護(そうちんご)として創建された社殿は権現(ごんげん)造りとなっており、「関西の日光」とも呼ばれ、江戸初期の代表的な重要文化財建造物としても有名である。
養翠園庭園	和歌山市	養翠園庭園は紀州徳川家第十代藩主徳川治寶により造営された松を主体とした約33,000㎡におよぶ大名庭園である。池は海水を取り入れた汐入りの池で全国的に珍しく、四季折々の花木が訪れる人々に季節を感じさせる。明治維新前までは五十五万五千石の大藩として、また、御三家の一と誇った旧藩主の遺跡として、旧地に旧状のままよく保存された庭園と建物で、文化財として国指定名勝の指定を受けている。
根来寺	岩出市	根来寺は新義真言宗の総本山として、葛城連峰の端におよそ350万㎡の境内を有している。国宝に指定される「根本大塔」、宗祖覚鑊上人独自の教学をあらわす大日如来像・金剛薩埵像・尊勝仏頂像の三尊を奉る「伝法堂」を中心に、史跡 根来寺境内は中世の佇まいを残し、四季折々桜・青葉・紅葉が変化に富み、多くの参拝者の目を楽しませている。
紀の川フライトパーク	紀の川市	パラグライダー愛好家を中心としたスカイスポーツを楽しむための施設である。都心からの近さ、フライトコンディションの良さ、離陸及び着陸地点の広さ等から日本でも有数のフライトパークとなっている。
粉河寺	紀の川市	北岸の山裾に宝亀元年(770)土地の領主大伴孔子古(おおとものくじこ)によって創建された。古来西国三十三霊場は第三番の札所として四季を問わず全国から巡礼者をはじめ幸せを願う多くの参拝者が訪れる。
丹生都比売大神	かつらぎ町	丹生都比売大神は、天照大御神の御妹神さまで、神代に紀ノ川流域の三谷に降臨、紀州・大和を巡られ農耕を広め天野の地に鎮座された。丹生都比売大神を祀る神社は全国に108社、摂末社を加えると180社余を数え、丹生都比売神社はその総本山である。室町時代に建てられた本殿楼門は国の重要文化財、平成16年に世界遺産に登録されている。
隅田八幡神社	橋本市	古代の条里跡を見わたす台地上にあり、隅田一族の氏神として栄えた。日本最古の金石文、国宝人物画像鏡で有名である。 10月中旬の例祭には、山車や神輿が出て境内でのお練りや、お旅所までのお渡りの神事が営まれ賑わう。また、神社では毎年6月中旬頃献花祭があり、境内に様々な種類の花菖蒲を展示している。

【出典：和歌山市観光協会 公式ホームページ、岩出市ホームページ、紀の川市観光協会、かつらぎ町観光協会、橋本市観光協会ホームページ】

## 7. 堰と周辺との関わり

### 7.3 堰事業と地域社会情勢の変遷

紀の川大堰事業と地域の社会情勢の変遷を表 7.3-1 に示す。

表 7.3-1 紀の川大堰事業と地域（和歌山市）社会情勢の変遷

年	紀の川大堰関連事業	住民活動・交流活動 地域の出来事	その他
昭和40年 代まで	明治22年		和歌山市 市制施行
	大正14年		上水道給水開始
	昭和9年		室戸台風襲来（和歌山市の 死傷者59人、全壊家屋232 戸）
	昭和46年	予備調査開始	
	昭和49年		せせらぎ公園オープン
昭和50～ 60年代	昭和55年		し尿処理場青岸工場竣工
	昭和59年		公共下水道一部供用開始
	昭和62年	建設事業着手	
平成元年 ～	平成5年	本体（一基）工事着手	阪和自動車道全線開通
	平成7年	紀の川大堰定礎	
	平成9年		和歌山市 中核市に移行
	平成10年	直川地区人工ワンド完成	
	平成15年	本体・周辺設備及び管理設 備完成	和歌山北バイパス（紀の国 大橋）開通
	平成16年	JR阪和線橋梁架替工事着手	
	平成17年	河川の掘削工事着手	
	平成18年		「紀の川一斉清掃」実施
	平成19年		紀の川大堰 体験教室開催
	平成20年	新六ヶ井堰部分撤去工事着 手	
	平成23年	紀の川大堰事業完了	「紀の川一斉清掃」実施
	平成25年		水ときらめき紀の川館 リ ニューアルオープン

【出典：和歌山わいわいサイト 和歌山河川国道事務所の紹介<河川事業>】

【出典：和歌山市市勢要覧】

## 7.4 堰と地域の関わりに関する評価

### 7.4.1 地域における堰の位置づけに関する整理

#### (1) 第4次 和歌山市長期総合計画（H21.3）

和歌山市では、人口減少や高齢化の進展等、様々な問題を抱える時代環境に対応していくため、平成21年3月に、市の行政運営の指針となる「第4次和歌山市長期総合計画」を策定している。

同計画では、和歌山市がめざす将来都市像を「海、山、川、まち みんなで磨く 元気わかやま市」と定め、その実現に向けて5つの分野別目標を定めている。この目標の一つである「自然環境と都市基盤が調和した快適なまち」に向けた施策の一つとして、「紀の川大堰関連事業の促進」、及び「河川の改修・機能維持」を行っていくこととしている。

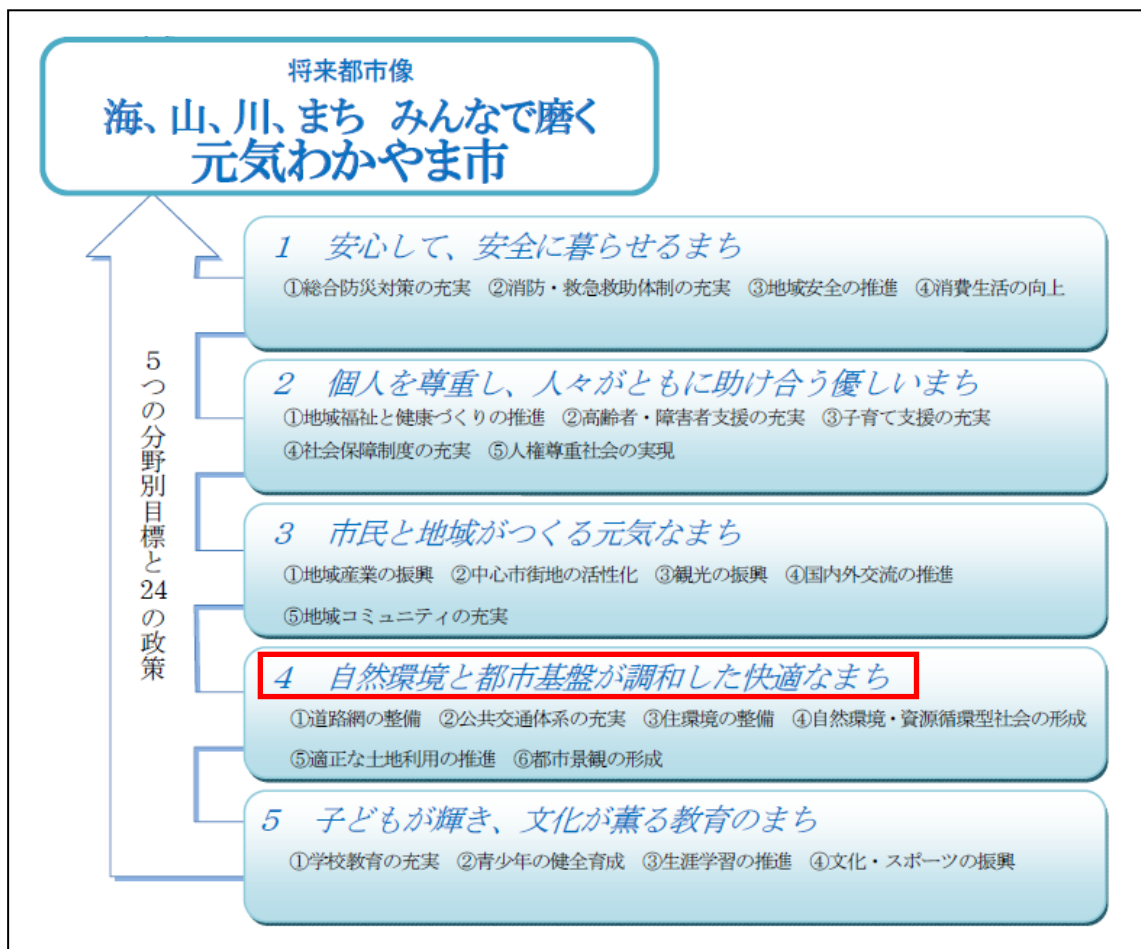


図 7.4-1 和歌山市の将来都市像と分野別目標

【出典：和歌山市長期総合計画 平成21年】



図 7.4-2 「自然環境と都市基盤が調和した快適なまち」に向けた取り組み

【出典：和歌山市長期総合計画 平成 21 年】

## (2) 第1次紀の川市長期総合計画（H20.3）

平成17年11月7日に旧那賀郡の5町（打田町、粉河町、那賀町、桃山町、貴志川町）が合併し、「紀の川市」が誕生した。紀の川市では、平成20年3月に策定した「第1次紀の川市長期総合計画」の前期基本計画に続き、平成25年3月に「後期基本計画」を策定しており、平成29年度までの5年間を期間としたまちづくりを進めている。

同計画では、施策目標の「環境づくり」の施策として、紀の川の高水敷に整備されている3ヶ所の河川緑地の適正な維持管理を行い、市民等のレクリエーション重要への対応を図ることとされている。

**基本施策**  
4-2-2

水辺の自然ふれあい環境づくり

**● 基本的な考え方**

- 市民が紀の川市の水辺の豊かな自然に親しむことにより、自然の大切さを認識し、積極的に水辺環境の保全に取り組むことができるよう支援を行います。
- 本市の水辺環境を体験交流の貴重な資源として位置づけ、水辺の体験や案内を行う人を養成し、市外の人にも楽しんでもらうしくみづくりや環境整備を推進します。

**● 目標が達成された姿**

市内主要河川の水質がきれいな清流となり、河川や水辺を利用した、様々なレクリエーションが体験できる地域が設定され、多くの人が安全に楽しめる水辺空間となっています。

**● 目標実現のための取り組み**

取り組み方針	取り組み事業
水辺の自然ふれあい環境づくり 国や県の管理となっている紀の川や貴志川などの大河川については、市民が安全に河川とふれあい、楽しむことができる空間整備を国や県に働きかけます。	水辺のふれあい空間整備事業
貴重な水生生物を守る環境づくり ほたるが多く生息する地域ではその生息環境を保全し、ほたるの時期には鑑賞スポットとして市民や交流客に楽しんでもらうように促します。また、ほたるが生息する良好な水質や河川環境がある地域として市民の自信につながる取り組みを進めます。	ほたる保護事業
河川の高水敷を活用した緑地の活用 紀の川の高水敷に整備されている3箇所の河川緑地の適正な維持管理を行い、市民等のレクリエーション需要への対応図ります。	公園緑地維持管理事業

図 7.4-3 水辺のふれあい自然環境づくりに関する計画

【出典：紀の川市長期総合計画 平成25年】

## 7. 堰と周辺との関わり

### 7.4.2 地域と堰管理者の関わり

#### (1) 出前講座の実施

近畿地方整備局では、一般の方との対話を重視した「コミュニケーション型国土行政」の推進のため、「出前講座」を開設し、近畿地方整備局の事業や施策についての解説を行うとともに、一般の方から意見・要望の聞き取りを行っている。

紀の川大堰においては、解説員が学校等を訪問して行う講座のほか、紀の川大堰に隣接する水ときらめき紀の川館に来館していただき、事業等についての理解を深めていただく講座を実施している。平成 25 年には、近隣の和歌山県立向陽中学校 1 年生が 7 月 10 日に水ときらめき紀の川館に来館し、環境学習や理科の「水」をテーマとした取り組みとして、紀の川の治水・利水や生態系等について学習した。



写真 7.4-1 紀の川大堰見学の様子

【出典：和歌山わいわいサイト 水ときらめき紀の川館】





図 7.4-4 出前講座の内容 (H25.7.10)

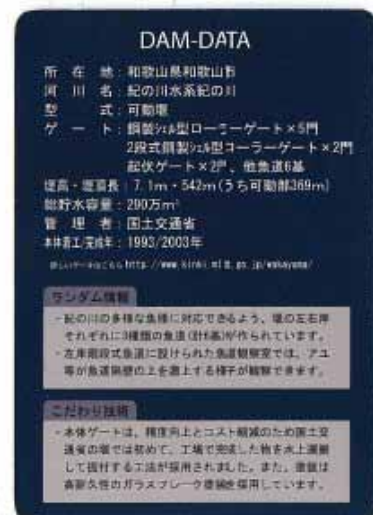
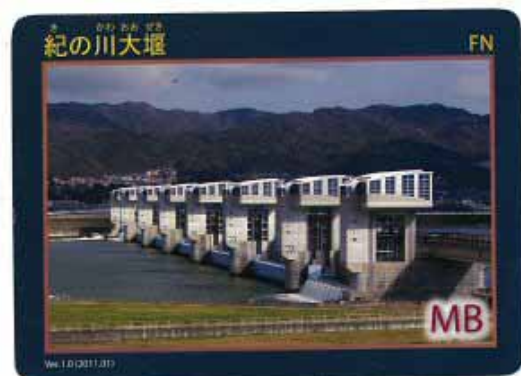
【出典：和歌山わいわいサイト 水ときらめき紀の川館】

## 7. 堰と周辺との関わり

### (2) 地域への情報提供

和歌山河川国道事務所では、パンフレット、堰カード、インターネットを活用して地域住民や来訪者に向けた情報提供を行っている。パンフレットは、一般向けと子供向けを作成し、紀の川大堰の役割や重要性についての情報、堰周辺の環境などの状況についてわかりやすく解説することで、容易に理解できる工夫をしている。

インターネットでは、和歌山河川国道事務所 HP において、紀の川の河川事業、浸水想定区域、周辺の地形・流況・水質・生物や、紀の川大堰の目的や役割などに関し、より詳細な情報の提供を行っている。また、子供向けのコンテンツとして、紀の川大堰に関する Q&A やクイズのページも設けている。



【出典：パンフレット 紀の川大堰】

【出典：堰カード 紀の川大堰】

図 7.4-5 パンフレット・堰カードでの情報提供



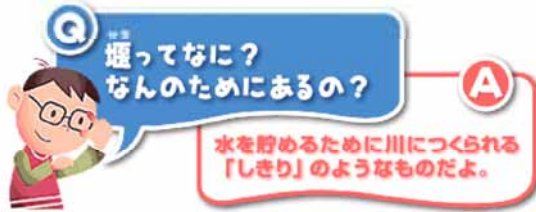
図 7.4-6(1) インターネットでの情報提供（一般向け）

【出典：和歌山わいわいサイト 和歌山河川国道事務所の紹介<河川事業>】

紀の川大堰
和歌山河川国道事務所の紹介 < 河川事業 >

## 紀の川大堰のふしぎ大研究！

堰とはなにか



**Q** 堰ってなに？  
なんのためにあるの？


**A** 水を貯めるために川につくられる「しきり」のようなものだよ。

川の水の量は、増(ふ)えたり減(へ)ったりするのを知っていますか。雨が(ふ)降ると多くなって、晴れの日が続くと、少なくなりますね。あまり少なくなると、飲み水や農業に使う水など、みんなの暮(く)らしに必要な水が足りなくなってしまう。そこで、考えられたのが水をせき止める堰(せき)を川の中につくこと。流れてくる水の量が減っても、水をせき止めているので、必要な水を利用できるという仕組みです。これが堰と呼(よ)ばれるものです。

紀の川大堰
和歌山河川国道事務所の紹介 < 河川事業 >

## 紀の川大堰のふしぎ大研究！

紀の川大堰クイズ！



**紀の川大堰クイズ！**

これだと思った **a b c** をクリックしてみよう！

**Q** 1. 紀の川大堰(おおぜき)をつくるのに何年かかりましたか？

**a** 2年間 **b** 5年間 **c** 10年間

**Q** 2. 紀の川大堰(おおぜき)にはどんな役割(やくわり)がありましたか？

**a** 洪水(こうずい)をなくすため  
**b** 水を利用するため  
**c** 2つの川に分けて水を流すため

**Q** 3. 紀の川大堰で貯めた水は、和歌山の人たち以外にだれが利用できるようになりますか？

**a** 奈良の人たち **b** 大阪の人たち **c** 三重の人たち

**Q** 4. 紀の川大堰(おおぜき)の周辺にはどんな生きものがすんでいましたか？

**a** ヤマメ **b** タイワンヒライソモドキ **c** ウミガメ

<<戻る
>>次へ

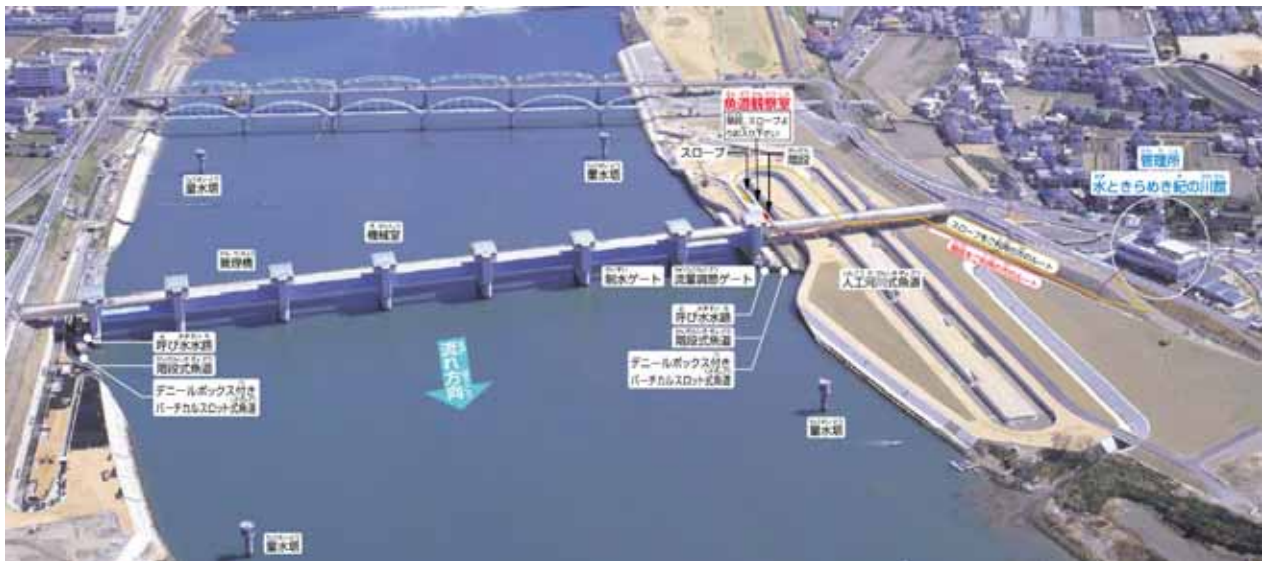
図 7.4-6(2) インターネットでの情報提供(子供向け)

【出典：和歌山わいわいサイト 和歌山河川国道事務所の紹介<河川事業>】

## 7.5 堰周辺の状況

## 7.5.1 周辺環境整備事業の状況

紀の川大堰の左岸側に「水ときらめき紀の川館」及び「魚道観察室」を整備している。



【出典：和歌山河川国道事務所 HP】

図 7.5-1 紀の川大堰周辺環境整備の状況

## (1) 水ときらめき紀の川館

水ときらめき紀の川館には、モニターやパネルを用いた各種の展示があり、紀の川について知ることができる。また、操作室、展望デッキ、魚道観察室などの見学が可能となっており、団体の見学者に対しては、施設の説明・案内等を実施している。



水ときらめき紀の川館 外観



水ときらめき紀の川館 館内

写真 7.5-1 水ときらめき紀の川館

## 7. 堰と周辺との関わり

### (2) 魚道観察室

魚道を遡上する魚類の観察を通して、広く一般に自然環境を理解してもらうことを目的とし、大堰左岸の魚道下側に魚道観察室を整備している。アユの遡上実績で定評のある階段式魚道を通る魚を、真横から観察することができ、出前講座でも利用されている。

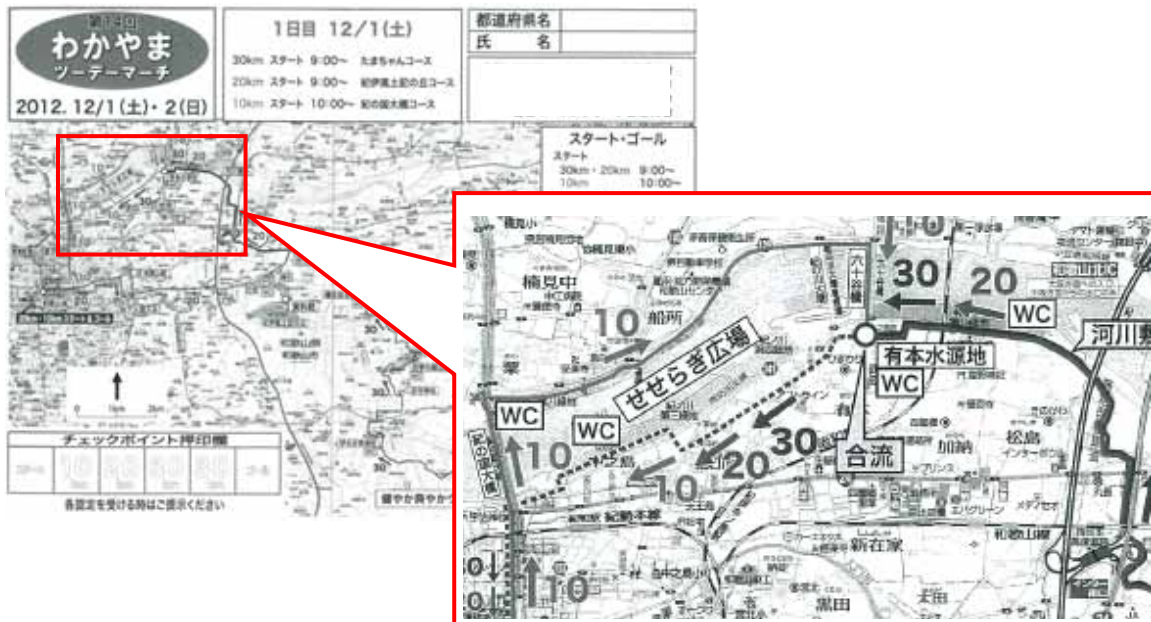


写真 7.5-2 魚道観察室

【出典：和歌山河川国道事務所 HP】

### (3) 大堰周辺の利用

「水ときらめき紀の川館」の施設は、地域の住民等が健康講座や講演会等の会場に有効に利用している。また、大堰周辺の緑地空間は、ウォーキングイベントの会場やスポーツレクリエーションの場等として、地域住民から有効に利用され、賑わいのある水辺空間が形成されている。



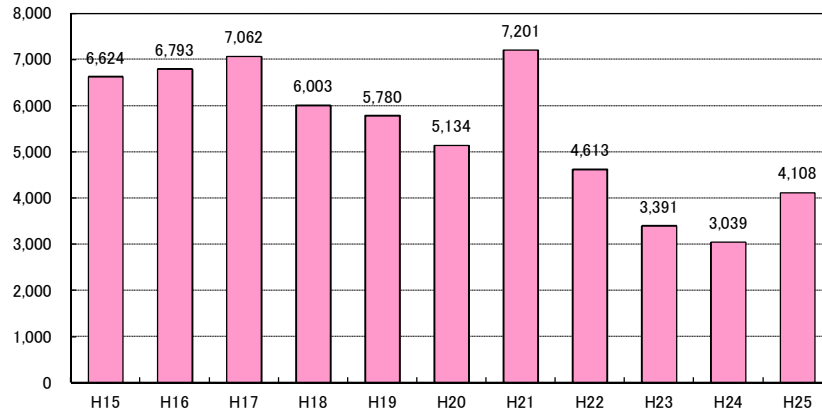
【出典：第 14 回わかやまツーデーマーチ】

図 7.5-2 ウォーキングイベントでの施設利用

## 7.5.2 堰周辺施設の利用状況

## (1) 水ときらめき紀の川館

水ときらめき紀の川館の平成 25 年の利用者数は 4,108 人であり、平成 15 年の開館以降、総入場者数は約 59,700 人に達している。



【出典：「水ときらめき紀の川館」月別見学者数推移】

図 7.5-3 紀の川大堰の見学者数の推移（平成15年度～平成25年度）

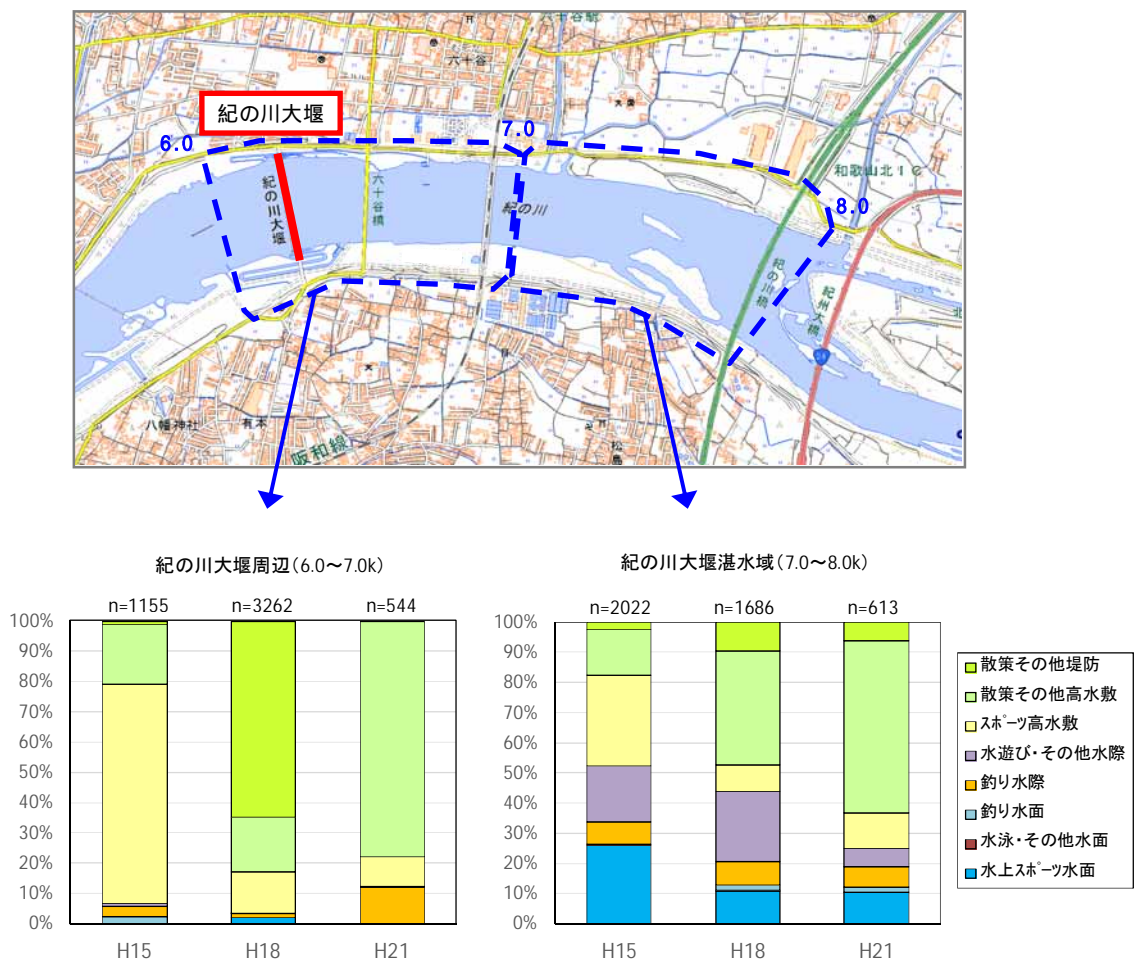
## 7. 堰と周辺との関わり

### 7.6 河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果

#### 7.6.1 河川空間利用実態調査結果

紀の川では、概ね 3 年毎に河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）を行い、河川の利用状況を調査している。ここでは、平成 15、18、21 年度の紀の川全体の調査結果から、紀の川大堰周辺（河口から 6.0～7.0km 区間）、紀の川大堰湛水域（河口から 7.0～8.0km 区間）の結果を抽出し、利用状況を整理した。結果は図 7.6-1 のとおりである。なお、利用者数は、年間 7 日間の調査日（春季 3 日、夏季 2 日、秋季 1 日、冬季 1 日）に、1 日あたり 1 回計数した実測値である。

紀の川大堰周辺の利用は、陸域の散策やスポーツが主であり、特に、平成 18 年には堤防の散策が利用者の大半を占めている。一方、紀の川大堰湛水域では、散策や陸上スポーツの他、水遊び、釣り、水上スポーツといった水面の利用も多く確認されている。このように、紀の川大堰の周辺では、多くの利用者が訪れるにぎわいのある水辺空間が形成されている。



【出典：平成 15 年度 紀の川河川水辺の国勢調査(魚介類等)業務 報告書 (河川空間利用実態調査編) 平成 16 年 3 月】  
 【出典：平成 18 年度 紀の川河川水辺の国勢調査(陸上昆虫類他底生動物)業務 (河川空間利用実態調査編) 平成 19 年 3 月】  
 【出典：平成 21 年度 紀の川河川水辺の国勢調査(底生動物)業務 (河川空間利用実態調査編) 平成 22 年 3 月】

図 7.6-1 紀の川大堰周辺の利用状況



また、河口から 4.3～6.1km の左岸側には、グラウンドや芝生広場、水路等を備えたせせらぎ公園が整備されており、近隣住民のレクリエーション空間として利用されている。平成 15、18、21 年度の河川水辺の国勢調査における、せせらぎ公園での利用者数調査結果を図 7.6-2 に示す。なお、利用者数は、年間 7 日間の調査日（春季 3 日、夏季 2 日、秋季 1 日、冬季 1 日）に、2 時間毎に 1 度計数した実測値の合計である。

せせらぎ公園の利用は、高水敷でのスポーツや散策が大半を占めており、周辺住民が気軽に利用できるレクリエーション空間として多くの人々に利用されている。

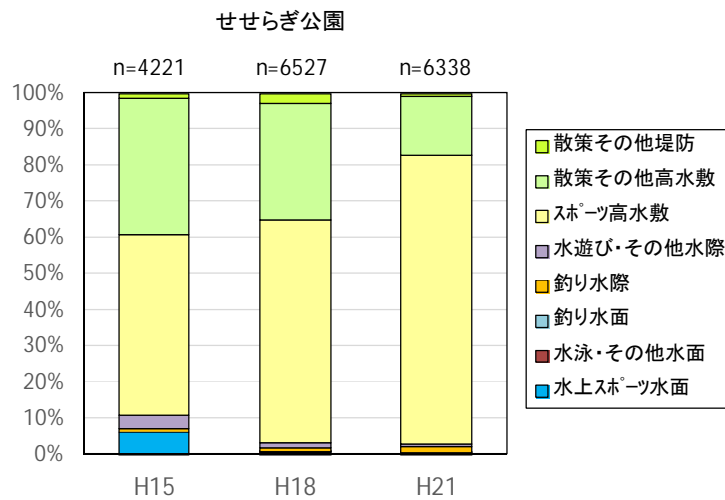


図 7.6-2 せせらぎ公園の利用状況

## 7. 堰と周辺との関わり

### 7.6.2 川の通信簿

#### (1) 「川の通信簿」の概要

「川の通信簿」とは、河川内の利用箇所において、市民と河川管理者が協働して河川の利用のしやすさを5段階で評価したものである。紀の川大堰周辺では図7.6-3に示す8箇所において、平成18年度に第1回目の調査を、平成21年度に第2回目の調査を行った。



図 7.6-3 「川の通信簿」点検箇所位置

目的と点検項目は以下のとおりである。

#### 「川の通信簿」の目的

全国の河川空間の親しみやすさや快適性などを現地において市民と共同でアンケート調査を実施した結果から、良い点・悪い点を把握し、河川整備計画や日常の維持管理等に反映することにより、良好な河川空間の保全、整備、管理を図る。

#### 「川の通信簿」の点検項目

15 の点検項目があり、それらの重要度、良い悪いなどの状態、整備の必要性を点検し、最後に5段階評価を行っている。

点検項目	点検内容	5段階評価
1 豊かな自然を感じますか	【現在の状態】 3. 良い 2. 普通 1. 悪い	★★★★★ 非常に良い。素晴らしい。
2 水はきれいですか		★★★★☆ 相当良い。満足感を味わえる。
3 流れている水の量は十分ですか	【整備の必要性】 1. 整備必要 0. 整備不要	★★★☆☆ かなり良い部分があり一定の満足感が味わえる。
4 ゴミがなくきれいですか		★★☆☆☆ ある程度良い部分がある。
5 危険な場所がなくて安全ですか	【点検項目の重要度】 3. 非常に重要 2. 重要 1. 普通 0. 不要	★★☆☆☆ 一部は良い部分がある。
6 景色はいいですか		
7 歴史・文化を感じますか		
8 堤防や河川敷には、近づきやすいですか		
9 水辺へ入りやすいですか		
10 広場は利用しやすいですか		
11 休憩施設や木陰は十分ですか		
12 散歩はしやすいですか		
13 トイレは使いやすいですか		
14 案内看板はわかりやすいですか		
15 駐車場は使いやすいですか		

図 7.6-4 川の通信簿の点検項目

【出典：和歌山わいわいサイト 和歌山河川国道事務所の紹介<河川事業>】

## (2) 点検結果

平成21年度調査では、紀の川大堰に近い「せせらぎ公園」の結果は「☆☆☆☆(4つ星)」であり、「相当良い。満足感を味わえる」と評価された。



---

**箇所名: せせらぎ公園** 市民に親しまれる河川公園

---

**■ せせらぎ公園まんな所**

河川名	1級河川紀の川水系紀の川左岸4.3K~6.1K	
所在地	和歌山県和歌山市有本	
アクセス	JR阪和線紀伊中ノ島駅より徒歩10分	
面積	150,000m <sup>2</sup>	
管理者	和歌山県和歌山市	
特徴	当公園は、和歌山市市街地に近く、都市住民が気軽に紀の川に近づくことのできる空間である。公園内には、グラウンドと遊具を備えた芝生広場、せせらぎ水路が整備され、多くの利用者がある。	
主な利用	スポーツ、水遊び、バーベキュー、散歩 など	
利用者数	1610人/日(7月26日(日)調査実績)	
点検参加人数	32名	

**■ 平成21年現在の成績表**

総合的な成績: ☆☆☆☆(四つ星:相当良い)

No.	点検項目	現状の状況			整備必要 %	重要度			
		良い	普通	悪い		非常に重要	重要	普通	不要
1	豊かな自然を感じますか		○		41%			○	
2	水はきれいですか		○		52%		○		
3	流れている水の量は十分ですか		○		9%			○	
4	ゴミがなきましたか		○		67%		○		
5	危険な場所がなく安全ですか		○		46%		○		
6	景色はきれいですか	○			24%			○	
7	歴史・文化を感じますか		○		0%			○	
8	堤防や河川敷には、近づきやすいですか		○		33%			○	
9	水辺へ入りやすいですか		○		44%		○		
10	広場は利用しやすいですか		○		26%		○		
11	休憩施設や木陰は十分ですか		○		71%		○		
12	散歩しやすいですか	○			19%			○	
13	トイレは使いやすいですか		○		64%		○		
14	案内看板がわかりやすいですか		○		48%		○		
15	駐車場は使いやすいですか		○		30%		○		

**■ 特に良い点**

- ・ 緑が多い
- ・ 誰でも自由に遊べる
- ・ 広場が多いのでスポーツ競技に適している
- ・ のどかでつろぎやすい
- ・ 目立ったゴミが無く綺麗

**■ 特に悪い点**

- ・ 案内看板が不十分
- ・ 休憩施設や木陰が少ない
- ・ トイレの数が少ない、使いづらい
- ・ 駐車場の整備不足
- ・ 広場の管理が不十分
- ・ 公園が周知されていない

**■ 総合コメント**

緑が多く、広々とした河川空間の中で様々なレクリエーションが楽しめる、市民に親しまれる河川公園です。今後は、案内板等の充実を図り、使いやすいトイレへの改善が望まれます。

【出典：和歌山わいわいサイト 和歌山河川国道事務所の紹介<河川事業>】

図 7.6-5 せせらぎ公園の「川の通信簿」

## 7. 堰と周辺との関わり

### 7.7 まとめ

#### 7.7.1 堰と周辺地域との関わりのおおまか

紀の川流域では、人口は昭和 55 年、産業別就業人口は平成 7 年をピークにそれぞれ減少に転じている。一方、観光面では、古くからの歴史や伝統文化、水と緑などの自然に恵まれた多様な観光地が多く点在しており、紀の川大堰が位置する和歌山市には年間約 600 万人の観光客が訪れている。

地域づくりの面では、和歌山市の長期総合計画には「紀の川大堰関連事業の促進」、紀の川市の長期総合計画には「紀の川の高水敷に整備されている河川緑地の適正な維持管理」が施策として掲げられており、地域づくりを進めるうえで紀の川や紀の川大堰の適切な管理・運営が求められている。また、紀の川大堰建設事業により内水被害が軽減された直川地区では、都市基盤施設が建設され、公共施設の設置や商業施設、事業所等の進出が見られ地域開発が進展している。

紀の川大堰に近接して「水ときらめき紀の川館」を紀の川大堰建設事業の一環として整備しており、紀の川に関する様々な資料の展示や環境学習の場等として有効に活用され、毎年多くの利用者が訪れている。平成 25 年には年間およそ 4,000 人強の利用者があり、開館以来の総入場者数は約 59,700 人に達している。加えて、紀の川大堰の左岸側に整備した魚道には観察室を併設しており、周辺地域に暮らす人々の環境学習等にも活用されている

大堰の周辺では魚道観察室の見学や散策、スポーツ等の利用も多く、賑わいのある水辺空間が形成されている。大堰下流左岸にはせせらぎ公園が整備されており、近隣住民のレクリエーション空間として利用されている。

#### 7.7.2 今後の方針

地域のイベントや環境学習など、周辺地域との交流の場を引き続き提供していくとともに、快適な利用のための維持管理を行っていく。

## 7.8 文献リスト

表 7.8-1 「7.堰と周辺地域との関わり」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者・出典	発行年月	引用ページ・箇所
7-1	数値地図 50000 (地図画像)	国土地理院	平成 20 年 8 月	7.2.1 堰周辺地域の概要
7-2	和歌山市について 人口・世帯 ( <a href="http://www.city.wakayama.wakayama.jp/menu_4/data/index_jinkou_setai.html">http://www.city.wakayama.wakayama.jp/menu_4/data/index_jinkou_setai.html</a> )	和歌山市ホームページ	—	7.2.1 堰周辺地域の概要
7-3	国勢調査 ( <a href="https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL02100104.do?tocd=00200521">https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL02100104.do?tocd=00200521</a> )	e-Stat 政府統計の窓口ホームページ	—	7.2.1 堰周辺地域の概要
7-4	和歌山県観光客動態調査報告書	和歌山県	昭和 50 年 ～平成 22 年	7.2.1 堰周辺地域の概要
7-5	奈良県観光客動態調査報告書	奈良県	昭和 50 年 ～平成 22 年	7.2.1 堰周辺地域の概要
7-6	県別マップル 30 和歌山県道路地図	旺文社	平成 24 年	7.2.2 堰の立地特性
7-7	和歌山市観光協会 公式ホームページ ( <a href="http://www.wakayamakanko.com/sightseeing/">http://www.wakayamakanko.com/sightseeing/</a> )	—	—	7.2.2 堰の立地特性
7-8	岩出市ホームページ ( <a href="http://www.city.iwade.lg.jp/ja/kanko-info.html">http://www.city.iwade.lg.jp/ja/kanko-info.html</a> )	—	—	7.2.2 堰の立地特性
7-9	紀の川市観光協会 ( <a href="http://www.kanko-kinokawa.jp/index.html">http://www.kanko-kinokawa.jp/index.html</a> )	—	—	7.2.2 堰の立地特性
7-10	かつらぎ町観光協会 ( <a href="http://www.katsuragi-kanko.jp/amanosiseki_niutuhime.html">http://www.katsuragi-kanko.jp/amanosiseki_niutuhime.html</a> )	—	—	7.2.2 堰の立地特性
7-11	橋本市観光協会ホームページ ( <a href="http://www.hashimoto-kanko.com/">http://www.hashimoto-kanko.com/</a> )	—	—	7.2.2 堰の立地特性
7-12	和歌山わいわいサイト 和歌山河川国道事務所の紹介<河川事業> ( <a href="http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/jigyoy_river/index.html">http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/jigyoy_river/index.html</a> )	国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 ホームページ	—	7.3 堰事業と地域社会情勢の変遷 7.4.2 地域と堰管理者の関わり 7.6.2 川の通信簿
7-13	和歌山市市勢要覧	和歌山市	—	7.3 堰事業と地域社会情勢の変遷
7-14	「水ときらめき紀の川館」月別見学者数推移	国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所	—	7.4.2 地域と堰管理者の関わり
7-15	和歌山わいわいサイト 水ときらめき紀の川館 ( <a href="http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/kinokawa/index.html">http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/kinokawa/index.html</a> )	国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 ホームページ	—	7.4.2 地域と堰管理者の関わり
7-16	パンフレット 紀の川大堰	国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所	—	7.4.2 地域と堰管理者の関わり 7.5.1 周辺環境整備等の状況
7-17	堰カード 紀の川大堰	国土交通省	—	7.4.2 地域と堰管理者の関わり
7-18	第 14 回わかやまツアーデーマーチマップ	—	—	7.5.1 周辺環境整備事業の状況

## 7. 堰と周辺との関わり

NO.	文献・資料名	発行者・出典	発行年月	引用ページ・箇所
7-19	平成 15 年度 紀の川河川水辺の国勢調査（魚介類等）業務 報告書（河川空間利用実態調査編）	国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所	平成 16 年 3 月	7.6.1 河川空間利用実態調査結果
7-20	平成 18 年度 紀の川河川水辺の国勢調査（陸上昆虫類他底生動物）業務（河川空間利用実態調査編）	国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所	平成 19 年 3 月	7.6.1 河川空間利用実態調査結果
7-21	平成 21 年度 紀の川河川水辺の国勢調査（底生動物）業務（Ⅱ. 河川空間利用実態調査編）	国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所	平成 22 年 3 月	7.6.1 河川空間利用実態調査結果